

令和元年度（2019年度）熊本市放課後子ども総合プラン運営推進委員会議事録（要旨）

日時：令和元年（2019年）10月1日（火）14：00

場所：熊本市役所駐輪場 8階会議室

【委員】

出席：8名

平山 裕之（熊本市小学校長会 放送教育研究会・副会長）
緒方 裕（熊本市小学校長会 庶務）
嘉悦 奈津子（熊本市 PTA 協議会常任理事）
加藤 貴司（熊本市地域公民館連絡協議会会長）
山城 千秋（熊本大学教育学部教授）
高橋 りう子（こぼと放課後児童クラブ）
米満 典子（出水南小児童育成クラブ）
中村 明子（学びノート教室サポーター）

欠席：1名

津地 尚文（熊本市民生委員児童委員協議会理事）

（敬称略）

【事務局】

出席：7名

津田 善幸（熊本市教育委員会事務局教育総務部長）
福島 慎一（熊本市教育委員会事務局教育政策課長）
内村 智（熊本市教育委員会事務局施設課長）
松島 孝司（熊本市教育委員会事務局指導課長）
香山 悟（熊本市教育委員会事務局健康教育課教育審議員）
村上 和博（熊本市経済観光局スポーツ振興課長）
水町 美延（熊本市教育委員会事務局青少年教育課長）

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 委員・職員紹介
- 4 委員長・副委員長選出
委員長 山城委員
副委員長 平山委員

5 議事（要旨）

(1) 【児童育成クラブの実施状況】

（事務局）

〈資料に沿って説明〉

（平山委員）

6年生まで受け入れをしている学校はどのくらいあるのか。そしてその子どもたちがどんな風に育成クラブで生活をしているのか。私は、高学年児童が育成クラブに行って放課後を過ごすというのが適当なのか、多少疑問に感じるところがある。本校でも利用児童が多く、その分施設が狭くなっている。これからさらに高学年児童が増えるとなるといろんな課題も増えていくように感じる。

（事務局）

現在、施設面積に余裕のあるクラブのうち、本荘小、川口小、芳野小、中緑小の4クラブで6年生までの受入を実施している。4～6年生の児童数は、本荘で2名、芳野で4名、中緑で4名となっている。余裕のある所と申し上げたが、余裕のあるところというのは、児童1人当たりの面積が1.65㎡以上という国の基準を十分に満たしている施設になる。そして、そのようなクラブは人数も少なく1つの教室の中で、1年生から6年生までが、仲良くコミュニケーションを取りながら生活している。特に高学年児童のプログラム、低学年のプログラムと分けているということはなく、自由な中でそれぞれの思い思いの活動をしている。

（中村委員）

児童館でも開設されているとのことだが、17時以降はそれぞれに帰宅するということか。

（事務局）

民間の児童館で実施しており、そのまま施設の中で過ごしている。

(2) 【放課後子ども教室の実施状況】

（事務局）

〈資料に沿って説明〉

（中村委員）

私は学びノート教室に関わっているが、二学期になって、教材がペーパーからタブレットに変わった。そしたら子どもたちが集合時間に遅れず来るようになり、学習もより意欲的に進めるようになった。とても良かったと思う。

（山城委員長）

今年度から学年の枠は取り払ったということだが、幅広い学年での参加になっているのか。

(中村委員)

うちの小学校では、以前と比較し変わっていない。

(3)【放課後子ども教室の実施状況について】

(事務局)

〈資料に沿って説明〉

(平山委員)

東区の校長会では部活動の話が必ず上がってくる。本校の場合は地域の協力が得られ、全運動部活動を社会体育に移行することができた。ただ、そのようなケースは少なく、地域間格差がでてきている。この地域間格差を委員会としてはどう捉えているのか、今後どう進めていくのか、各校長の考えに任せるといっていいのか、考えをお聞かせ願いたい。

(加藤委員)

私は北部の方だが、うちも地域で社会体育をうけもっており、活動においては、空いてる時間は学校施設を使えるよう学校長に許可をもらっている。ただ、このような判断が学校長によって変わってもらうと困る。例えば、数校合同で活動をしているクラブにおいては、ある校長は学校施設を貸すが、一方の校長は他所の児童がいるなら貸せない等、校長によって対応が変わる場合がある。その辺を委員会で統一してもらいたい。

(平山委員)

東区の校長会の中で、福岡のある市がとっている事例の紹介があった。内容としては、中学校区単位で地域総合型が関係している学校の子どもを受け入れて、種目ごとに組織を作るというものである。そうすることにより、中学校区単位で同じ種目のクラブが複数できることがなくなり、指導者の問題も少なくて済む。そのあたりを多少なりとも改善していくと、地域間格差というのも少なくなっていくのではないかと。

(事務局)

今の形のまま来年も再来年も続けていくというのは考えていない。実際に保護者や子どもたちのニーズや地域の実情も変わってくる。一番大事なのは、運動したいという子供たちが運動できる環境を作っていくことで、委員会でもその実現に向け取り組んでいる。現状では、それぞれの地域の実情が違うため、学校長それぞれに対応をしていただいている。総合運動部等を作って学校で受けってもらったり、中学校区で総合型を立ち上げていただく、もしくは中学校区で小学校の持っている部活を分担する等、やり方はいろいろ考えられる。その辺の情報提供も学校の先生方にしていくと同時に中学校の先生方ともすり合わせをしていく必要があると考えている。

また、総合型スポーツクラブは現在市内に21クラブあり、市内51小学校区はこの21クラブで運営をするというような形をとっている。熊本市全域に総合型の設置をし

ていくよう事業をしているが、ここ数年はなかなか伸び悩んでいる。特に市内中心部においては、指導者含めて人材がないというようなところもあり苦慮している。本日ご提案いただいた貴重な意見を踏まえ、検討を進めていきたい。

(山城委員長)

放課後の子どもの居場所をサポートするというのは、校区単位でなく広域の中学校区というのが今回1つキーワードになるかなと考える。

(4)【意見交換「今後の放課後児童の在り方について」】

①児童育成クラブの今後の取組について

(事務局)

〈資料に沿って説明〉

(山城委員長)

前回に引きつづき、高学年の受入・開所時間延長について多くの課題を出していたが、市民アンケートを見ると、高学年受入れの希望というのは検討していく必要があるのではないかと考える。また、開所時間についても様々な課題があるが、実際にはいくつかのクラブでは対応ができてきているということも踏まえて、今後この問題についてはずっとニーズとしてあがってくるものだと思う。したがって、これらについて、少し前に進めていくためにはどのような取り組みをしたらいいのか、各委員の方々それぞれの立場からご意見・ご提案を賜りたい。

(米満委員)

出水南小児童育成クラブでは、昨年度から今年度にかけて子どもの人数が29名増え、保護者がクラブを必要とされているのをとても強く感じる。支援員の願いとしては、子どもたちが育成クラブで過ごす時間をいかに充実したものにできるかということだが、どうしても施設が狭くなるとトラブルも多くなる。1人あたりの施設面積の確保は難しいと思うが、児童数が増えるクラブに関しては、施設の確保をぜひお願いしたい。

(高橋委員)

うちは保育園の中に児童クラブがあるため、開設時間延長に関しても、保育園と同じ取扱いで対応している。高学年に関しても受け入れ体制はあるが、高学年になったら学童は終わりという考えを保護者様ももっておられるし、子どもたちもそう思って部活動に行ったりしているため、うちの育成クラブは何の問題もない。

(緒方委員)

現状からすると、どんどん新しい施設を作っていただいているが、それでも子どもたちの数からすると窮屈な中で生活しているというのは変わらない。熊本市の市民アンケートからすると、延長時間というよりも、学年の枠を広げていただきたいという傾向があることが読み取れるが、本校だけでなく、市内の学校の現状からしても1

年から3年まででも支援員の先生方は大変苦勞されているので、一挙に6年まで受け入れるというのはとてもじゃないけど難しいのではないかと思っている。それでも日ごろから連携していろんな話をしていくことは非常に大事だと思うため、今後も育成クラブと学校がしっかり話をしながら進めていくことはとても大事だという風を感じる。

(平山委員)

先ほどの統計で、高学年まで受け入れてほしいという保護者のニーズに疑問を感じるのもあるが、子どものニーズとの整合性があるのかどうか、どういう理由で6年生も受け入れてほしいのか、そこらあたりも見ていく必要がある。3年生までに関しては防犯上の理由等で心配だということもわかるが、6年生になると自分で遊びたいのではないかと思う。

(山城委員長)

何か理由はわかるか。

(事務局)

把握はしていない。今後その理由や、子どものニーズとの整合性に関しても加味したうえで検討を進めていきたい。

(山城委員長)

保護者・PTAの立場から嘉悦委員いかがでしょうか。

(嘉悦委員)

やはり、「帰ってすぐ遊びに行きたい。」というのが子ども本音なのかなと思う。また、子ども主体で考えると、開所時間が長くなるのはあまり望ましくはないのかなと感じる。

(加藤委員)

4.5.6年生を一気に受け入れるというのは難しいかもしれないが、例えば4年生までを受け入れてみたり、開所時間延長についてもできるところからしてみたり、段階的にしていくのも1つの方法だと感じる。

(中村委員)

各地区に公民館があると思うが、あまり稼働してない施設等をうまく利用できないものかと思う。

(加藤委員)

大江公民館あたりは公立公民館と地域公民館が近くにあり、そこにはいつも管理人が常駐している。そのようなところなら対応できるかもしれないが、一般的に600の地域公民館がある中で、常勤して管理人がいるという公民館はまずない。だから、やるとなれば自治会単位で考えて当番制で管理人を付けるなど対応が必要だろうと思う。ただすぐ、地域公民館で対応してほしいといっても多分無理だろう。そういう話し合いを自治会でしないといけない。

(山城委員長)

一番の問題は、学校内の施設だけでは受入が難しいというところは、学校内の施設の拡充というところをしない限りは受入が難しいということかと思う。喫緊の課題として、今、目の前にいる子どもたちにどう対応するかといったときに、地域の施設との連携というのは一つ大きな手段なのかなと思う。

(4)【意見交換「今後の放課後児童の在り方について」】

②放課後の子どもの居場所について

(事務局)

〈資料に沿って説明〉

(山城委員長)

子どもの放課後の居場所については、育成クラブや放課後子ども教室等があるが、もう少し多様な子どもたちの過ごし方を考えるということで、加藤委員から川上小学校の児童の多様な放課後の過ごし方についてご紹介をいただきたい。

(加藤委員)

以前の取組だが、内容としては、川上小学校の空き教室を利用して、手話や将棋、囲碁、折り紙教室や算数教室等をしていた。学校の先生方だけでは当然見守りはできないため、地域からサポートするという形で運営していた。取組が中止となった経緯は不明だが、そのような形で、学校と地域との連携という形で子どもの居場所を作るのはいいいことだろうと感じる。現在は、北部まちづくりセンターと地域が連携し、まちづくりセンターの空きスペースを利用し、平日の16時から18時まで、小学生や中学生たちが自由に勉強できる学習スペースを開設している。しかし、これは小学校の立場から見た場合、下校時の寄り道にあたらぬのかといった見方もあり、今のところはおそらく、学校長も率先してそのような場所の利用を勧めることはできないだろう。だから結局、まちセンと川上小校区の団体が連携して子どもたちを見守ろうという取組をやっている。それからもう一点、川上小学校でサマースクールという取組をしており、夏休み期間中に学校の先生方や地域のボランティア等が教室におり、子どもたちが来て、夏休みの宿題をやっていたという話を聞いた。

(山城委員長)

川上小学校は北部まちづくりセンターと非常に近いという関係で、社会教育と学校教育が連携し、子どもたちの居場所として公民館や学校施設を利用しているというようなことでご紹介いただいた。先ほど事務局からもあったように、市民アンケートからは、放課後子ども達に多様な体験をさせたいが、様々な理由で現状としては自宅に居ざる得ないという状況がある。そのような中で、公共の場所での子どもの居場所というのは、どういったものを今後考えていったらいいのか、委員の皆様からご意見を

伺いたい。

(緒方委員)

龍田西小校区では、地域の方が読み聞かせ教室や伝承教室などを開催されている。今後それ以外の活動で、学校の施設や校区の中の公民館等を使い、放課後の子どもの居場所が1か所、2か所できれば非常にありがたいなということで、今、取組を検討している。

(平山委員)

託麻西小校区も、地域の人材をしっかり活用していきたいということでさまざまな取組を行っている。その中で地域公民館を活用していくという案は、どうにか実現化できないだろうかと思う。加藤委員が言われたように、地域公民館は数多くあり、そこに寄ったとしても家に帰る距離はそこまでない。そこに地域の人材がその時間だけ入っていけばいい。そういう組織づくりをやっていくと、今の育成クラブの狭さというところも少しずつ解消されていくのかなと思う。

(中村委員)

学びノートも1年生からということで、育成クラブに通う中で、1回2回なり学びノート教室に来てもらう等、連携はできないだろうかと感じた。

(山城委員長)

育成クラブと放課後子ども教室はなるべく一体的にというのは国の方針でもある。しかも同じ学校の施設内にいるということを考えて、今までは学年の問題で連携が難しかったと思うが、これからは広がっていくのではないかと思う。

(米満委員)

今、地域の方が土曜日を利用されて、体育館で子どもたちに運動をさせるという取組がある。ただ、育成クラブを利用する場合、ある時間だけクラブを抜けるというのができない。そこがどうにかならないかと思う

(事務局)

児童が出て、クラブに帰ってくるかというのが一番心配する点であるため、そこをしっかりとできる仕組みづくりが整備できれば問題ない。その辺の仕組みづくりに関しては検討していきたい。

(山城委員長)

貴重なご意見ありがとうございました。本市は各小学校に育成クラブがあり、どこに住んでいても育成クラブが利用できるといった点は評価していると思う。ただ、それぞれ地域の事情が違う中で、スポーツや学びノート教室も含め、指導者をどう確保するのかという課題があり、そしてその中で、指導者の質に関しても問うていく必要があるのではないかと感じた。それから、行政でハード面を整備しているが、もう少し、いろんな活動をしている団体をつないでいくという取組が必要だと思う。施設面言えば、地域公民館やコミュニティセンターを利用するというのも1つの方法では

ないかと思う。それから、放課後の過ごし方を地域と学校が連携してやるということも大事だが、家庭教育の面からも、放課後の子どもの居場所について考える必要があると感じる。親の働き方改革も一方で進めて、17時に仕事を終えて18時には迎えに行けるように熊本市の労働環境も変わっていけば、この問題も自ずと解決するのかなと思う。非常に長期的な見通しが必要かもしれないが、そのようなことを思った。

6 その他

(山城委員長)

その他、何かご意見等はないか。

(一同)

〈意見等なし〉

7 閉会